

平成29年から「畑でリハビリを！」という想いから、施設外就労として、こまつなの収穫作業の請負契約を締結。通年の葉物野菜の収穫と、一時的な繁忙期に、田んぼの育苗箱並べ、枝豆の選別・袋詰め、たまねぎ苗の出荷作業を請け負ってもらう。平成30年から石川県の「農福連携促進アドバイザー」（石川県障害保健福祉課）を務め、県内でのマッチングの促進に貢献している。また、小中学生の職業体験を受け入れたり、総合学習や保育園で食育活動を行い、地域農業の魅力を伝え、食への関心を高める活動を行うなど、幅広い活動を行っている。

基本情報

- 所在地：石川県内灘町
- 団体名：株式会社 笠間農園
- 選定表彰：
 - ・平成23年 中日農業賞「優秀賞」
 - ・令和元年 日本リハビリテーション学会 第47回大阪大会「施設外就労としての農業、活動量測定から見えるその可能性」を発表
 - ・令和2年 ディスカバー農山漁村の宝2020全国選定
 - ・令和4年 河北潟生産組合連合会優良生産者表彰石川県知事賞
- 主力商品：こまつな、ほうれんそう、えだまめ、にんじん、さといも

取組の概要

- こまつな、ほうれんそう、えだまめ、にんじん、さといも等をハウス58棟(1.7ha)と露地(5ha)で栽培。
- 地域の小学校から農業見学を受け入れたり、保育園への食育活動、収穫体験を実施。
- 通年での『河北潟こまつな』の収穫・袋詰めと、一時的な繁忙期に、それぞれの施設の特徴を活かし、施設外就労を受け入れる。
- 作業療法士として病院に勤務していた経験を活かし、共同研究を行い農業の医学的なエビデンスを追っている。
- 県のマッチングに立ち会い、農家と福祉をつなぐ農福連携促進アドバイザーを務める。

通年での小松菜収穫



枝豆の選別・袋詰め



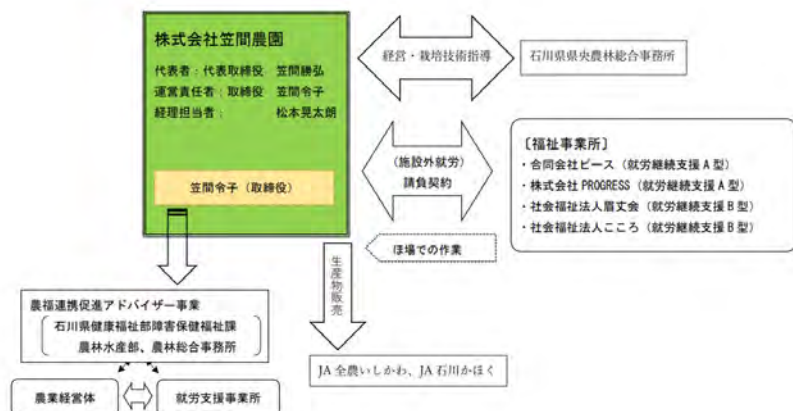
小松菜を商品化
『こまつなマフィン』



茎は食べやすい大きさに切り
パック詰め



体制図



取組の成果

- 施設外就労として、こまつなの収穫・袋詰め作業を通年で3施設、えだまめの出荷作業では、夏2ヶ月間で6施設が携わる。
- えだまめは年々出荷量が増加するとともに、請け負ってもらう仕事量が増し、工賃単価を上げることに成功。さらに、収穫した農作物を商品化し、6次産業化にも取り組む福祉事業所が出現。
- アドバイザーを務める県事業では、令和3年度には90件のマッチングに繋がっている。

所在地 ▶ 石川県河北郡内灘町湖西85

連絡先 ▶ TEL: — E-mail: komatsunanako@kasamanouen.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.kasamanouen.jp>

【取組のプロセス】

農家の高齢化と担い手不足、荒廃農地の増加は続く

平成29年

きっかけ

○元作業療法士である取締役の病院勤務の経験から、自園にて高齢者が元気で健康に農作業される姿を見て、農作業にはリハビリ効果があると確信。

「畑でリハビリを！」

- 近隣の就労支援施設から、「障害者に農作業をさせて欲しい」と依頼され、受入を開始。
- 農園内のたくさんの仕事の中から、「こまつなの収穫」をお願いし、効率向上を目指す。



ほうれん草の収穫作業

半年で「障害者も農業で活躍できる！」と確信

- 障害者が携わる作業を増やすことで、依頼する福祉事業所も増え始めた。
- こまつなの収穫・袋づめ（通年作業）に、3福祉事業所、えだまめの収穫と出荷（夏の繁忙期）には、6福祉事業所となった。また、たまねぎの苗の出荷作業にも多くの障害者が活躍している。



稲の苗箱並べ作業

石川県内にも農福連携を広げる

- 平成30年 石川県農福連携促進アドバイザー となり、マッチングの助言を行っている。
- 令和3年度の マッチング件数は90件 で年々増えており、加賀から能登まで県内中に広がりを見せている。



石川県マッチングの様子

農福連携の魅力を最大限に活かし、伝え広げ実行していく。

- 農園において障害者・高齢者を含む多様な方々が活躍できる可能性を拡大していく。
- 労働力としての農福連携から一歩前進し、**心身機能向上などの農業の魅力を追求**していく。



障害者と農園スタッフ

平成30年

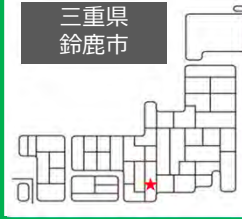
ディスカバー農山漁村の宝
全国選定

令和2年

農山漁村振興交付金（農福連携対策）
を活用

令和3年

今後の
展望



平成22年に就労継続支援事業所を開設し農業に参入。平成25年のステップアップカフェ開設により飲食事業に取り組む。障害者が好きな作業、得意な作業を選択することで作業の能率を上げ、高収入が得られる組織作りに取り組む。

基本情報

- 所在地：三重県鈴鹿市
- 団体名：社会福祉法人朋友
- 選定表彰：－
- 主力商品：葉物野菜（リーフレタス、水菜、小松菜等）、弁当、パン、総菜
（自社農場の農産物を用いた農福弁当）



自社農場の農産物を使った
農福弁当

取組の概要

- 農業部門は、ハウスの水耕栽培を中心に露地栽培でも野菜を生産。露地栽培の農地は、平成30年の97aから令和3年の153aと56a増加。
- 飲食部門は、平成25年にステップアップカフェを開設、平成27年にDeliを開設し弁当作りで障害者雇用を開始。売上げは、平成30年の2,149万円から令和3年の2,438万円と289万円増加。
- 令和4年に弁当・パン・総菜の製造販売とイートインコーナーを併設した新店舗を開設したことにより、更なる売り上げ増が見込まれる。



わか菜の杜での
水耕栽培

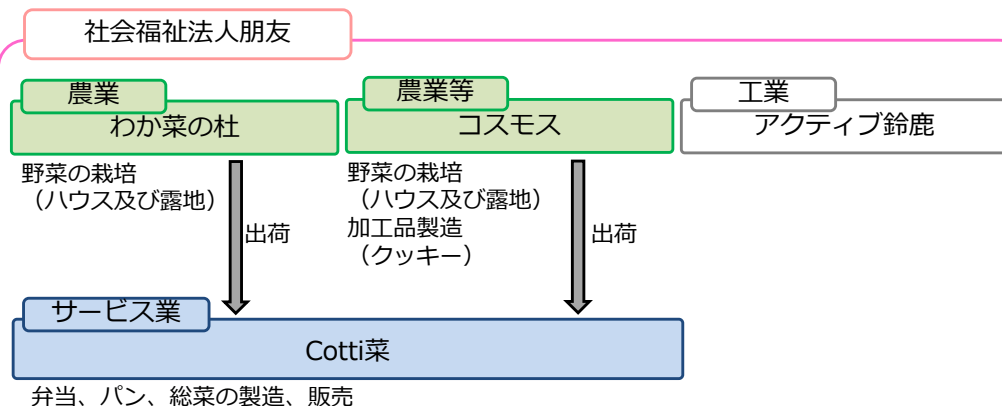


令和4年4月開店の新店舗
「Cotti菜」



「Cotti菜」で作った
パンの販売

体制図



取組の成果

- 就労継続支援B型事業所「わか菜の杜」及び「Cotti菜」を合わせた令和3年度の平均工賃は53,007円を達成（令和2年全国平均は15,776円）
- 令和4年就労継続支援B型事業所「コスモス」の経営も担い、障害者雇用及び農業生産拡大に取り組んでいる。

所在地▶三重県鈴鹿市三日市南三丁目18-23

連絡先▶TEL: 059-389-7789

E-mail:cottina@active-suzuka.com

ウェブサイト▶<https://www.active-suzuka.com>

【取組のプロセス】

知的障害・精神障害の方を中心に加工作業に取り組む

平成12年

きっかけ

製造業で障害者を雇用する中で、障害者もそれぞれ就きたい仕事があることを知る。勉強会を踏まえ農業分野での障害者の活躍の場を作り出せる確信を得た。

平成22年

2つ目の柱となる農業分野「わか菜の杜」を立ち上げる

障害のある方の社会参画を推進

- 平成18年に自動車用部品製造の事業所を設立。設立した事業所に障害者を雇用する中で、障害者もそれぞれ就きたい仕事があることを知る。
- 農業とレストランの分野で障害者が活躍できる場所を作れないか、勉強会を実施。

平成26年

3つ目の柱となる飲食分野Cotti菜Deliを立ち上げる。

新たな事業の展開

- 平成22年のリーマンショックで製造業が停滞したため、障害者が働く場の創出に向け、勉強会で障害者の活躍に確信を得ていた農業分野に進出。
- 平成25年に三重県の公募に申請し、障害者が働くステップアップカフェCotti菜を開設。平成27年に鈴鹿市でCotti菜Deliを開設し、弁当作りで障害者を雇用。
- 令和2年12月にノウフクJASを取得。

令和2年12月ノウフクJAS取得

新店舗設立に向けた経営支援

令和4年

新店舗Cotti菜を設立。

新店舗「Cotti菜」を設立

- 令和4年にCotti菜Deliを移設する形で新店舗を開設。
- 新店舗では、障害者の就労を増やすとともに従来から働く障害者から希望があったパンや総菜を調理・販売するスペース及びイートインスペースを設け、店舗内で弁当やパン等を食べられるようにした。
- 店舗内の販売スペースには、わか菜の杜の野菜や三重県内の農福連携商品販売コーナーを設け、農福連携事業の情報発信基地にもなっている。

今後の展望

障害を持つ子供たちの働く将来を考える場の提供

- 隣接する放課後等デイサービスに通う障害を持った子供たちに、障害者が働く職場の見学及び就労体験の受入れを行い、早くから働くことを知り将来を考える機会を提供。
- 障害に対する悩みや不安を話し合ったり、福祉制度の勉強会等の活動を行う。



ノウフクJAS認定野菜



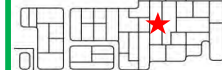
Cotti菜での弁当作り



Cotti菜での弁当及び野菜の販売コーナー



Cotti菜の三重県内農福連携商品販売コーナー（上段）



平成28年からサトイモ生産者の組合に加入し、岐阜県特産品の「円空さといも」を生産。また、組合員から手間のかかる調製作業を請け負うことで、組合員1戸当たりの栽培面積が15aから20aに増加。

基本情報

- 所在地：岐阜県関市
- 団体名：株式会社DAI
- 選定表彰：－
- 主力商品：円空さといも、黒にんにく、美濃蜜芋（干し芋、焼き芋）



円空さといも

取組の概要

- 約1haの農地において、ニンニク、サツマイモ、タマネギなどを生産。ニンニクは黒にんにくに熟成加工、サツマイモは干し芋や焼き芋に加工。
- サトイモ生産者の組合員から岐阜県特産品の「円空さといも」の収穫作業、毛羽取り、選別作業を請負。
- 関市内の農業者から借り受けた圃場30aで、自社でも円空さといもの栽培を実施。



円空さといもの収穫作業



施設外就労（調製作業）



作業を委託した農家の方々と

体制図

【株式会社DAI】

生産管理、農業部、
委託請負部

めぐみの農業協同組合

作業指導、
工賃調整等

作業請負契約

仲介

岐阜県中濃農林事務所

「生涯現役プロジェクト」
に参画

中濃里芋生産組合

関市

就労継続支援A型/B型
事業所「それいゆ」

ふるさと納税返礼品に採用

取組の成果

- 岐阜県特産品の「円空さといも」出荷のための調製作業を請け負うことで、組合員の経営に余裕が生まれた（組合員1戸当たりの栽培面積が15aから20aに増加）。
- 丁寧な作業が信頼を得て、農産物全体の売上高（加工品を含む）は、337万円から861万円に増加（平成27年→令和3年）。
- 農作業に従事する障害者の中には、岐阜県内A型事業所の平均を上回る月10万円以上の賃金を支給される者もいる。

所在地▶岐阜県関市平和通3丁目12番地

連絡先▶TEL：0575-23-1101 E-mail：dai-farm.non@biscuit.ocn.ne.jp

ウェブサイト▶<https://www.dai2011.com>

【取組のプロセス】

平成23年

利用者の賃金確保のため、野菜を作るだけの農業から移行する必要

きっかけ

愛知県犬山市で株式会社DAIファームを設立。当初は、個人農家と連携し、ビニールハウスでのイチゴの水耕栽培やシイタケの菌床栽培を行い、販売。

平成26年

年間を通して安定した作業を確保する必要

岐阜県関市に事業所を開設、社名を株式会社DAIに変更

- 平成26年4月、社名を株式会社DAIに変更。
- 「地域の景観を守る」、「地域の特産品を創生する」、「地域の特産品を守る」という目標を掲げる。

平成28年

JAめぐみの、岐阜県中濃農林事務所等の支援

「地域の特産品を守る」

- 岐阜県関市に事業所を開設するとともに、就労継続支援A型事業所を開設。
- JAめぐみの、岐阜県中濃農林事務所、中濃里芋生産組合と連携し、地域の特産品である円空さといもの毛羽取り作業を請け負う。
- 手間のかかる作業を引き受けることで、生産者は栽培面積を拡大することが可能となり、収穫量が減少していた円空さといもの栽培面積が増加。自社でも栽培を始める。



施設外就労（ユズの収穫）

平成29年

持続可能な地域づくりに参画

「地域の景観を守る」、「地域の特産品を創生する」

- 就労継続支援B型事業所を開設。
- 当初は荒廃農地を再生して野菜を栽培していたが、近隣農家が耕作しなくなった農地を借りることで自社の耕作面積が増加（令和3年度末現在、約1ha）。
- 自社で栽培したサツマイモやニンニクなどを加工して販売。また、ニンニク加工商品が関市のふるさと納税の返礼品に採用される。



関市「生涯現役プロジェクト」への参画

（サツマイモの収穫）

今後の展望

・令和2年に古くなった里芋の毛羽取り機を新調
・1日あたりの作業量をUPし、毎年増える依頼にも対応
・令和4年現在、7件の農家からの作業依頼に対応

「農福連携」からはじまる「地福連携」の形を創る

- 地域の企業や農家、JA、農林事務所、行政と一体となって課題に取り組むことで、仕事を作り、安心して長く住み続けることのできる地域を創る。
- 地域の支え手として活躍できる機会を拡大し、土と、人と、地域と、仕事と、分断された結びつきを「福祉」を通して再生し、暮らしと経済づくりを支えていく。



営農条件の悪い畑を活用してみかんや野菜等を生産し、これを用いて喫茶を開催するなど、深刻化する荒廃農地の増加等の課題に対して、地域の関係者と協力しながら地域に根差した取組を進める。

基本情報

- 所在地：和歌山県有田川町
- 団体名：社会福祉法人有田つくし福社会
- 選定表彰：－
- 主力商品：

温州みかん等柑橘類、南高梅、山椒、ししとう、なす、たまねぎ、ばれいしょ、地域の果物を用いたジャムやマーマレード
- イベント：

喫茶の定期開催等

取組の概要

- 利用者22名と、農作物の生産、加工及び販売や弁当配達等を含めた6次産業化、地域の交流サロンとしての喫茶の開催等に取り組む。
- 担い手が見つかりにくい中山間地の段々畑を活用して、みかん等の柑橘類、南高梅、山椒、野菜を生産。みかんは競合を避け、大阪や関東へ出荷。
- 生産したみかん等を用いたジュースや、近隣農家が生産した果物を用いたジャム等を製造。
- 喫茶の定期開催や高齢者を対象に無料で弁当配達を行う。



廃校を利用した事業所



みかん等栽培園地



加工品（ジュース、ジャム）

体制図

有田つくし福社会

つくし共同作業所（B型、生活介護）

カフェ＆ベーカリーオリーブ（B型）

有田地域生活支援センターつくし（相談支援）

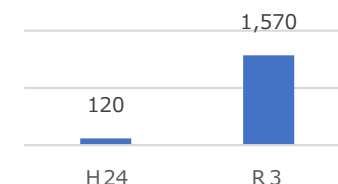
あっぷるホーム（GH）

早月農園（B型）

取組の成果

- 農業収入は、約120万円（平成24年）から約1,570万円（令和3年）に向上。
- 月当たり平均工賃は、約16,000円（平成24年）から約29,000円（令和3年）に向上。

農業収入（万円）



所在地▶和歌山県有田郡有田川町尾上13-1

連絡先▶TEL:0737-34-2008 E-mail:hayatsuki@iaa.itkeeper.ne.jp

ウェブサイト▶<http://www.wasaren.org/hayatsuki/>

【取組のプロセス】

平成24年

きっかけ

内職やパンの製造・販売を中心の作業所を運営していたが、農作業のセラピー効果や健康増進効果が期待し、かつ、さらに多くの利用者を受け入れを検討

荒廃農地を活用して農業を開始

- 地域で増加する荒廃農地40aを借受け、農業を開始。
- その後、経営耕地面積を拡大。（令和3年時点で約4.7ha）
- 栽培技術の習得による収益向上を目指し、JAの農業塾等に参加。



温州みかんの収穫

平成29年

6次産業化により工賃向上を実現

- 工賃の向上を目指す6次産業化の一環として、無添加のみかん及びはっさくのジュースや、ジャムを商品化。
- 高齢者を含めた地域雇用を進め、地域交流を目的としたサロン『喫茶はやつき』を定期開催。高齢者を対象とした無料の弁当配達を開始。
- 目標であった利用者平均工賃3万円／月を達成。



高齢者弁当配達サービス

令和2年

出荷先の拡大と少品目化の推進

- ヤマト福祉財団の実践塾がきっかけで、大阪の作業所など塾生が在籍する県外の作業所とみかんの取引を開始。
- ヤマト福祉財団の助成を活用し、ハウス、柑橘の選果機、ジャム製造機などを整備。
- 利用者の作業のしやすさへの配慮と売上向上を図るため、多品目栽培を改め、少品目栽培を推進。



早月農園周辺

今後の
展望

今後も地域に根差した農園運営に取り組む

- 地域の障害者、高齢者、農家、その他関係者と協力し、課題を共有しながら地域に根差した農園運営に今後も取り組んでいく。
- 利用者の経済的な自立に貢献するため、平均工賃3万円／月以上の継続達成を目指す。
- これまで5名が一般就労しており、今後も継続して一般就労を支援する。

就労継続支援B型事業所「早月農園」開設

町の補助事業を活用し、獣害対策の実施と柑橘運搬用モノレール等を整備

農福連携推進協議会（現：日本農福連携推進協会）に加盟

ヤマト福祉財団主催の農福連携実践塾に入塾

令和4年、認定農業者となる



○ 障害者でも高品質なものを製造でき、農業の労働力になりえる。単なる作業受託ではなく、事業所として原材料生産を行うことを重視し、生産者となることで農業の持続化が可能となると考え実践。

基本情報

- 所在地：山口県阿武町
- 団体名：社会福祉法人 E.G.F
のんきな農場阿武事業所
- 選定表彰：
 - ・平成27年 ディスカバー農山漁村の宝
第2回全国選定 プロデュース賞
(主催：農林水産省)
 - ・平成29年 6次産業化優良事例表彰 奨励
賞農福連携賞 (主催：6次産業化推進機構)
 - ・平成30年 地産地消活動優良活動表彰
優秀事例 (主催：共同通信社)
- 主力商品：冷凍ボイルカット野菜

取組の概要

- 山口県学校給食会との連携
 - ・知的・精神・発達などの障害者で冷凍ボイルカット野菜を製造。主に山口県学校給食会へ販売。県内ほぼ全ての小・中学校で使用されている。
 - ・製造過程で障害者が目視検品を行っており、異物混入はほぼない。
 - ・障害者が育てた野菜（特に規格外野菜）を使用した商品を提供していることが話題となり、食育にもつながり学校の栄養士からリピートオーダー。
 - ・協力農家は捨てていたものがお金になり、かつハウス内の清掃を障害者が行うなど、多くの作業に従事してくれることから作業工程が楽になり作付け回数が増えるというWin-Winの関係を構築。
- 農事組合法人福の里との連携
 - ・田植え時（130ha）の、ハウスからの苗出し・田植機への受け渡し・苗箱洗浄などの作業への役務提供。また、一部草刈りの受託。
 - ・共同での商品開発や、障害者が農事組合法人の生産した水稻の稲架掛け作業を行い付加価値の高い天日干し米の販売。

体制図



取組の成果

- 規格外野菜の仕入れにより、農家の所得向上・作業負担の軽減に寄与。
- 学校給食用に販売を行うことにより、県産野菜使用率の向上や食育・地産地消の推進に寄与。
- 令和3年の平均工賃は取組前の約2倍（約16,000円）であり、県平均（15,000円）を上回る。
- 毎日活動することにより地域に活気が生まれるとともに、障害福祉に対する理解が生まれた。

所在地▶山口県阿武郡阿武町福田上1326

連絡先▶TEL:08388-5-0050 E-mail:egf@Athena.ocn.ne.jp

ウェブサイト▶<http://e-g-f.jp/>

【取組のプロセス】

平成20年

きっかけ

事業所として生産者となることで農業の持続化が可能となる。
障害者が高品質な物を製造する。

平成22年

6次産業化団体として農林水産省より認定

NPO法人として社労継続B型事業所のんきな農場を開設

- 平成22年、社会福祉法人の認可を取得し、社会福祉法人E.G.F設立。
- 平成26年、6次産業化団体として認定される。



畦畔の草刈り作業

平成28年

6次産業化ネットワーク交付金事業の活用

6次産業化スタート

- 平成28年、のんきな農場阿武事業所（就労継続支援B型事業所）を開設。6次産業認定団体として、6次産業化・農福連携に取り組む。
- 6次産業化ネットワーク交付金事業が大幅減額になったが、事業の重要性と継続性から民間借り入れを増額し、実施。



地元住民を招いての収穫体験

令和元年

全国で初めて社会福祉法人が6次産業認定団体となり、全国から視察が増加

地域の維持・発展に貢献

- 令和2年、認定農業者として認定される。
- 地域のほうれんそう農家からB級品の収穫依頼が激増。Win-Win関係性の構築。
- 農事組合法人福の里との連携強化 田植え・草刈りと切っても切れない関係性。



冷凍カット野菜洗浄作業

今後の展望

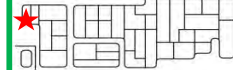
県議員や県内外のJA等から地元でかかえる問題解決のため視察が急増

地域の活性化と障害者の就労・居場所作り・社会参加の更なる拡大

- 社会福祉法人E.G.Fの目指す農福連携とは、単なる農作業の請負ではなく、障害者が地域農業の継承者となること。
- 常に5年後・10年後の地域の状況を予見しながら日々活動を実施し、障害者の就労の場の拡大、居場所づくり、社会参加へ繋げていく。



冷凍カット野菜製造作業



○平成15年の設立以来、「びわ茶」の製造による農福連携の取組を開始。現在は自家農園での栽培に加え、近隣農家から仕入れた野菜を用いた加工品の開発・製造やレストラン・直売所を運営。近年ではネットを用いたECサイト（長崎ゆめびわ茶ストア）を開設するなど取組を拡大している。

基本情報

- 所在地：長崎県長崎市
- 団体名：社会福祉法人 出島福祉村
- 選定表彰：－
- 主力商品：びわ茶、花苗、スイーツ・ジャム・コーヒー等の加工品
- イベント：－



びわ茶



びわジャム

取組の概要

- 平成15年就労継続支援B型事業所「三和ゆめランド」を開設し、地域の特産品である「びわ」の葉を利用したお茶の製造を開始。
- 出島福祉村自体で福祉事業と農業を営むとともに、グループ内の農業法人（株式会社出島ファーム）や地域農業者との連携により、農業の担い手不足の解消、生産の維持による地域の活性化に取り組んでいる。
- 現在ではびわ茶（商品名：長崎ゆめびわ茶）以外に、直営農園や地域で生産される農作物を利用したスイーツ、びわジャム等の加工品の製造にも取り組んでいる。
- 地域社会との連携、障害者の自立を図ることを目的に、直売所やカフェレストラン、ネット販売サイト（びわからMARKET）の開設等により障害者の自立に向けた取組を進めている。



就労継続支援B型事業所「三和ゆめランド」

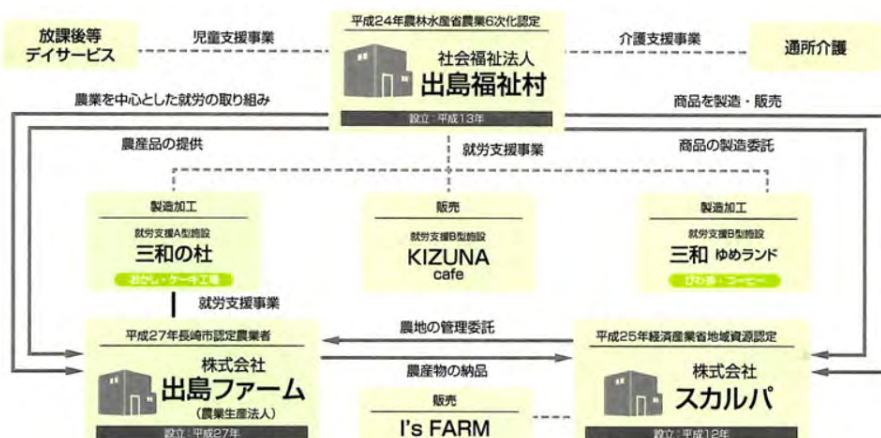


びわの葉の収穫



びわの葉の加工

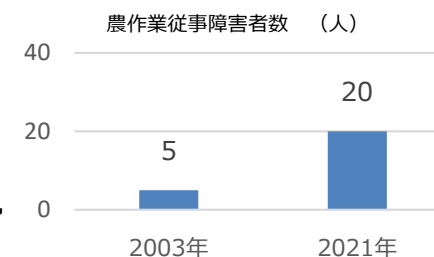
体制図



取組の成果

○令和3年の農作業を担う障害者就業者数は20人で、取組当初の平成15年の5人から18年間で4倍に増加。

○加工場、レストラン、直売所を含め、現在グループ全体で40人の障害者が就労。



所在地 ▶ 長崎県長崎市岩川町2-3-5F

連絡先 ▶ TEL:095-842-8222

E-mail: dejimafukushi@scarpa.co.jp

ウェブサイト ▶ <http://dejimafukushi.or.jp/>

【取組のプロセス】

働き手の減少
荒廃農地の増加
地域活力の低下

平成13年

きっかけ

○ 農家の高齢化・後継者不足による、びわ畑の荒廃農地の増加とびわの葉が廃棄されていることに着目し、障害者の就労支援のために活用することとした。

平成15年

地域の特産「びわ」の葉を利用したお茶の加工を開始

○ 就労継続支援B型事業所「三和ゆめランド」を開設するとともに、地域の特産物である「びわ」の葉を活用したお茶（びわ茶）、花苗等の生産を開始。

花木苗育成事業受託（長崎市）

平成19年

取組作物の拡大及び認定農業者の認定取得

○ 長崎市の花苗育成事業の受託に伴い、ビニールハウス3棟による花苗育成を開始。
○ 三和ゆめランドに直営農園を開設し、びわ600本、ざくろ50本、いちじく50本他を植栽。

平成24年農林水産省6次産業化事業計画認定

平成25年

農産物直販売とレストランを開設

○ びわ茶等グループ内で生産された農産物・加工品を販売する直売所、カフェレストランを開店。

農山漁村振興交付金（農福連携対策）の活用（令和3～4年）

令和3年

新商品の開発、ECサイトの開設により新たな販路の拡大

○ 地域の野菜等を用いた新たなレシピを開発。
○ 新たな販路拡大を図るためECサイトを開設。

今後の展望

観光農園の整備による、地域の活性化

○ 出島福祉村では、現在観光農園の整備をすすめており、交流人口の増加や、地域農産品の販売拡大による地元農家の所得向上を図るとともに、障害者の雇用確保、工賃・賃金の向上を目指す。
○ 将来的には障害のある方々が「一生安心して生活できる終の棲家」の整備を目指す。



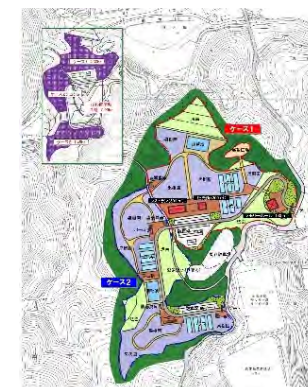
収穫されたびわの葉



花苗の栽培



カフェレストラン
KIZUNA



観光農園整備計画図